

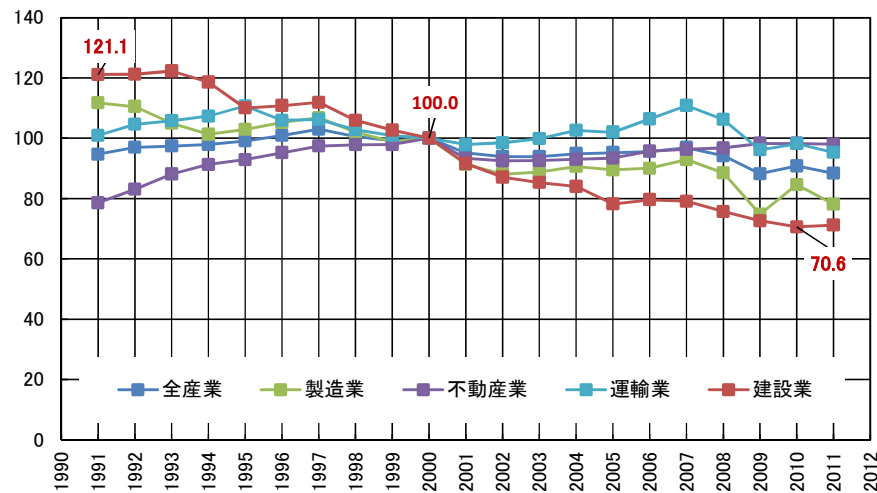
Develop Creator of Future Town



Problem

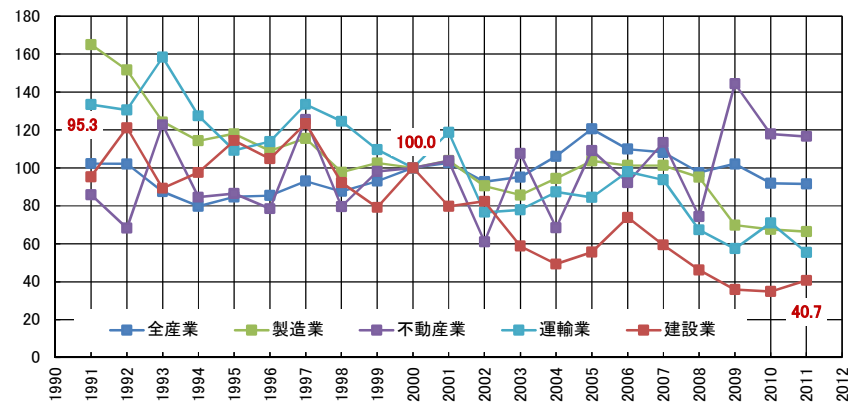
建設業は、私たちの暮らしの安全を守り、豊かな暮らしを創造していくために必要不可欠な産業にも関わらず、現在縮小傾向にある。

今後、高齢化が進む中で誰もが住みやすい社会を作り、インフラの老朽化対策を行っていくのは、**若い世代**である。



産業別国内総生産の推移 (2000年=100)
資料) 国土交通白書 2013より

しかし、若い世代は建設業において特に**減少**している。下のグラフの通り、建設業に入職する若者は年々減少している。



35歳未満の産業別入職者の推移 (2000年=100)
資料) 国土交通白書 2013より

建設業の魅力を、これから進路を考える若い世代に知ってもらうためのアイデアを提案していきたい。

Idea 1

実際に目で見て、空気を感じたことは、印象に残りやすいものである。小学生の頃に社会科見学をした記憶はおぼろげながらも皆さんも記憶に残っているのではないだろうか？

建設業のスケールの大きさを

知ってもらうために...

- ・座学で簡単なしくみを学んだ後に**ダム**や**橋**、**建築物**等を見学する機会を設ける
- ・夏休みの宿題として...

- ① **土木構造物の絵画コンクール**を開催
- ② **自由研究**の課題を紹介する

例: 「橋の種類」

「蛇口に水が届くまで」

「身近な土木構造物の模型をつくろう」

Idea 2

高校生が就きたい職業ランキング※に挙がっている建設業には「建築設計士」がある。

(参考: 1位 公務員/2位 教師/3位 看護師)

ここに名前が挙がっている職業は、他には薬剤師やタレント医師など、日常生活を送る中で、接したり、メディアで取り上げられたりするものが多い。

※一般社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査「第6回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2013」

建設業も若い世代が気づきにくいだけで、橋や道路、河川など非常に身近な職業ではないだろうか？

身近な存在であることに気づいてもらうために...

・建設工事を行う際には、近隣の学校に、現在行っている工事の様子や取り入れられている技術を易しく説明した「**工事だより**」を配布する

・総合的な学習の時間や進路を考える授業で

- ① **建設業従事者が学校に赴き**、仕事の紹介をする。
- ② 過去の自然災害や渇水の**歴史**を調べ、それらに対してその後どのような**対策**がとられたかを学ぶ。
- ③ **工事現場を見学**できる機会を設ける

Idea 3

将来なりたい職業が具体化していく時期である。

建設業の就職先には、建設コンサルタントやゼネコン、ハウスメーカー等数多くのフィールドが待っている。しかし、大学生の多くがそれぞれの職種の主な業務内容を理解していないのが実情である。就職活動を始めてから詳しい仕事を知る...という学生も少なくない。

建設業がどのような仕事か詳しく

知ってもらうために...

- ・**インターンシップ**を個々の会社で行うだけでなく、建設コンサルタント協会等で各業種一括した窓口を設ける。

(学生がいろいろな会社を知る機会を得るため)

- ・OBが積極的に母校を訪れる。業界で活躍する**先輩の生の話を聞く**機会を大学で設ける
(自分がやりたい職種・適性がある職種を探る)

